令和3年12月24日

令和３年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和３年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和3年5月27日（木）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　67　人

②　算数　67　人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

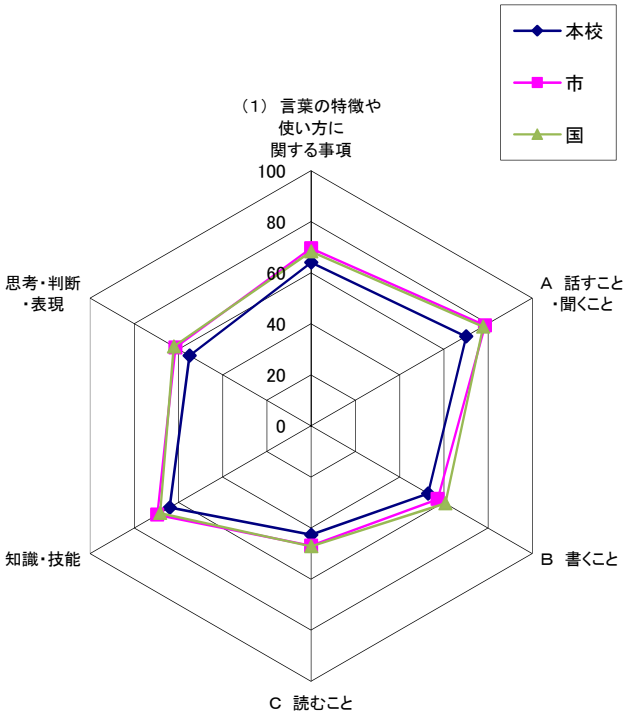
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度 本校	本年度 市	本年度 国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	64.0	69.6	68.3
	（2） 情報の扱い方に関する事項			
	（3） 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと･聞くこと	70.1	78.7	77.8
	B 書くこと	52.9	57.3	60.7
	C 読むこと	42.6	46.9	47.2
観点	知識･技能	64.0	69.6	68.3
	思考･判断･表現	55.0	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

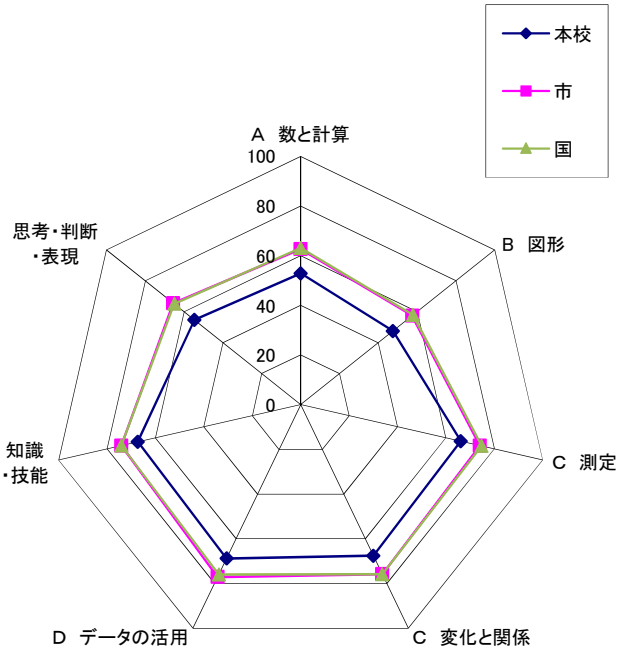
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	●国，市の平均を下回った。 ●特に，「つみ重ね」という言葉の「積み」という漢字を書く問題の正答率は39.7%で全国から約14ポイント下回った。また，無回答率は22．1%であった。 ○文中の主語と述語との関係を捉える問題については，国の平均を上回った。	･言葉の意味や使い方を理解させるために，国語辞典や漢字辞典，一人一台端末を使用する機会を適宜設ける。 ･新出漢字を「読むことができる→書くことができる→文章中使うことができる」のステップを踏み，その定着を図る。 ･教科書教材の文中の主語や述語，修飾と被修飾の関係を問うことをとおして，それらの働きを理解するようにさせる。
A 話すこと・聞くこと	●国，市の平均を下回った。 ●問題別で見て，やや国の正答率より下回ったものもあるが，「話す際になぜその資料を用いたか」の理由を問われた問題の正答率は60.3%で全国から約15ポイント下回った。	･スピーチや発表をする際に，どんな資料提示をすれば，より相手に伝わるかを考えて取り組ませる。 ･誰にどんな内容を伝えるか，なぜそのスピーチや発表をするかを明確にして，目的や意図に応じて話すことができるようにさせる。 ･国語の授業だけではなく，総合的な学習の時間や他教科の発表などと関連付けて，教科横断的に話す･聞く力が身に付くようにさせる。
B 書くこと	●国，市の平均を下回った。 ●「自分の主張が明確に伝わるように，文章全体の構成や展開の工夫の仕方」を考える問題では，正答率が50.0%で全国から約15ポイント下回った。	･話すことと同様に，自分の伝えたいことを明確にするために，どんな構成や展開の仕方がよいかを考えさせて，書く活動に取り組ませる。 ･長い文章を書くだけではなく，字数制限の中で自分の考えをまとめることができるように，授業中に適宜その機会を設ける。 ･それぞれの適性に合わせ，一人一台端末で入力することや手書きなど，児童が自分自身に合う方法を選択するようにさせて，書く力を伸ばすようにさせる。
C 読むこと	●国，市の平均を下回った。 ○「目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約する」問題は国の正答率と同等であった。 ●「文章全体の構成を捉え，内容の中心となる事柄を把握する」問題は正答率が67.6%で全国から約10ポイント下回った。	･文章がどのような構成になっているか，筆者の工夫はどんなところにあるか，丁寧に読み進めるようにさせる。 ･事例と意見，問いと答えなど文章同士の関係を把握し，何について書かれているか理解して読むようにさせる。 ･様々なジャンルの文章を読む機会を設けたり，本の紹介をさせたりすることで，読むことに慣れ親しませる。

宇都宮市立御幸が原小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	52.9	62.6	63.1
	B　図形	47.5	57.5	57.9
	C　測定	66.2	74.1	74.8
	C　変化と関係	67.6	75.8	75.9
	D　データの活用	68.8	77.1	76.0
観点	知識・技能	67.3	74.1	74.1
	思考・判断・表現	54.8	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	○「示された余りのある除法の結果について，日常生活の場面に即して判断する」問題の正答率が79.4%で，国や県の平均に近かった。 ●「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び，その求め方と答えを記述する」問題の正答率が44.1%で，県の平均より約16ポイント下回った。 ●「小数を用いた倍数についての説明を解釈し，ほかの数値の場合に適用して，基準値を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する」問題の正答率が42.6%で，県の平均より約8ポイント下回った。	・朝の学習の時間や習熟度別指導等を活用し，児童の理解度に合わせた様々な問題を繰り返し指導したり，既習事項の復習を取り入れたりして，基礎的基本的な計算力の定着を図る。 ・授業で，学習内容を日常生活へ応用する場を多く取り入れたり，プリント等の補助教材を活用し演習量を増やしたりして，様々な内容の問題に対応する力を養う。 ・様々な記述問題の演習をし，理由の根拠となる数学的な思考力を養い，模範解答を示して表現力の向上を図る。
B　図形	○「複数の図形を組み合わせた図形の面積について，量の保存性や加法則を基に捉え，比べる」問題の正答率が66.2%で，国や県の平均に近かった。 ●「三角形の面積を求める」問題の正答率が38.2%で，県の平均より約14ポイント下回った。	・授業や朝の学習等でプリントなどの補助教材を活用し，図形の面積の求め方等の既習事項を復習するとともに，具体的な操作を通して形の構成について考える場を設け，図形の組み合わせなどを捉える空間認知能力の向上を図る。
C　測定	○「条件に合う時刻を求める」問題の正答率が88.2%で，国や県の平均とほぼ同じであった。	・授業で，具体物を操作したり，日常生活を想定したりする課題を提示し，数学的な見方や考え方，発想の豊かさを養っていく。
C　変化と関係	○「速さを求める除法の式と商の意味を理解する」問題の正答率が52.9%で，国や県の平均とほぼ同じであった。 ●「速さが一定であることを基に，道のりと時間の関係について考察する」問題の正答率が76.5%，「速さや道のりを基に，時間を求める式に表す」問題の正答率が73.5%と，国や県の平均を約10～11ポイント下回った。	・朝の学習の時間や習熟度別指導等を活用し，速さ・道のり・時間の関係の復習を十分に行う。 ・日常生活を想定した問題に取り組ませたり，プリント等の補助教材を活用し演習量を増やしたりし，算数的思考力の習熟を図る。
D　データの活用	○「棒グラフから，数量を読み取る」問題の正答率が92.6%，「棒グラフから項目間の関係を読み取る」問題の正答率が85.3%と，国や県の平均に近かった。 ●「帯グラフ」で示された」複数のデータを比較し，示された特徴をもった項目とその割合を記述する」問題の正答率が42.6%と，県の平均を約9ポイント下回った。	・データの示す数値の読み取り方，比較の仕方などの習熟を図るとともに，問題文の内容を理解する力を養う。 ・社会科，理科等の他教科でもデータを分析したり，自分でグラフを作成したりして，データの活用力向上を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

【傾向】
○公徳心・規範遵守の意識が高く，「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の肯定的回答の児童が88%と高い割合を占めている。
○「人の役に立つ人間になりたいか」の質問については，肯定的回答が９５．６%と高い割合を占める。
○「友達と協力するのは楽しいと思いますか」では，91.2%の児童が肯定的回答を占めている。
○国語・算数ともに「勉強は大切」（国語…92.6%，算数…98%），「授業で学習したことは，将来，社会に出た時に役に立つ」（国語…88.2%，算数…92.7%，）と肯定的な回答した児童が高い割合を占める。
○「学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」の肯定的な回答は97.1%，「コンピューターなどのICT機器を，他の友達と意見を交換したり，調べたりするために，どの程度活用していますか」の利用頻度は週1回以上が64.7%と県や全国と比較しても高くなっている。
●規則正しい生活(朝食をとる。同じくらいの時間に起きたり寝たりする。)が，全国や県と比較するとやや低い。
●質問47，48，49といった具体的な指導内容に関する質問では，「当てはまる」の回答が，言語（32.4%）・聞く・話す（17.6%）・表現（16.2%）と低くなっている。
●質問52「算数の勉強は好きですか」では，肯定的回答が55.9%と県・全国と比較して低くなっている。
●国語の指導内容質問36，40，41，42の「話し合う活動を通して」「話し合い」「話し合い活動を生かして」「自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動」といった『話し合い』⇒『それを生かして，何かそこから生み出しているか』といった設問に対する回答は，「当てはまる」がどれも10%から20%台であり，「どちらかといえば，当てはまる」を加えても，県・全国と比較して低くなっている。
●質問65「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中，計画的に学習を続けることができたか」について，肯定的回答が50%と県・全国と比較して低くなっている。

【指導上の工夫】
・ 学習の重要性は感じているものの，基礎基本の定着が不十分なため，十分に意欲を発揮できないのではと考えられる。朝の自習や授業前の5分間などで基礎基本の復習を行う。その際，ICT教材の活用は，本校の児童に向いていると考えられる。
・話し方（ゆっくり・はっきり・主語と述語を忘れないなど）や聞き方（だまって・相手を見て・最後までなど）の基本のひな型を活用し，まずは日常的にスキルの習得を意識させ，安心して意見を発表できるようにする。
・ICTを活用し，多くの児童の意見を取り上げられるようにする。
・学習の計画表のようなものを用意し，それに従って学習を進めるように支援する。授業中もプランニングを意識させる。

宇都宮市立御幸が原小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
個に応じた指導と学習内容の定着を図る指導の充実	・単元に応じた少人数学習，習熟度別学習やTT体制の授業。 ・朝の学習（火・金）における，担任外の教員も参加しての個別指導。	今年度は，コロナウイルスによる緊急事態宣言発令の為，学級を解体した学年としての取り組みや，日課の変更による朝の学習のカットなどから，十分な実施ができなかった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・４月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し，学年に応じた家庭学習の時間のめやすや家庭学習の内容を提示している。	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という設問に肯定的に回答した児童の割合は69.1%で，国の肯定的割合を4.9ポイント下回っている。授業時間以外に１日当たり１時間以上勉強する児童は63.3%で，国の回答を若干回っている。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○自分の考えを表現することが難しい。 ○問題を読み取る力が弱い。 ○思考力を伴う問題を苦手としている。	・目的に合った表現方法や表現内容を身に付けさせる場の設定，学習活動の工夫 ・家庭学習（計画的な学習・復習を中心）の奨励・啓発	国語では，どのように書くと相手に伝わりやすいか，なぜそれがふさわしいのかなど，適切な記述の仕方を考えるように習慣付ける。また，読書活動の推進を図り，様々な文章を読む機会を設ける。 算数では，授業の中で問題把握からまとめまでを数，式，図，表，グラフ，言葉などを用いて自分の考えを書かせることで，数学的な表現ができるようにする。 家庭学習は計画表を用いて取り組ませ，成果に対して称賛を繰り返し，家庭学習の継続を啓発をする。優れた内容のノートを掲示し，よさを広め，互いに学び合えるようにする。